

博物館実習を終えた感想

特に印象深かったのが梱包実習である。実習の事前に仏像、掛軸、茶器の梱包方法の動画を見て、過程を文字に起こしてレポートを作成し、実習では実際に梱包作業を行なった。梱包作業はとても興味深くて楽しかった。作品をよく観察し、丁寧に作業することはもちろん、共に作業をするパートナーとのコミュニケーションも大切だということを学んだ。ヤマトロジスティクスグローバルジャパンの美術品専門の方々から教えていただき、現場での貴重なお話を聞くこともできて、とても有意義な時間だった。

実習の中で最も苦労したのが、展示制作実習である。実習の当時、会期中であった「第 28 回九州産業大学美術館所蔵展 Arts & Material」において展示されていた作品の中から、出品作品を選んでオリジナルの展覧会を作り上げていく課題である。展示のコンセプトやストーリー、来館者にとってのメリットなど、全体として一貫性を持たせつつ、グループで話し合っただけでブラッシュアップしていく作業はとても大変だった。けれどもこの作業を通して、展覧会企画の大きな流れを理解出来るようになり、また展覧会の主催者と来館者という二つの目線で客観的に考えることも可能になり、大きな達成感と収穫になった。

博物館実習に参加する前は、美術館・博物館の展覧会を観に行っても、作品とその情報しか観ていなかったが、見学実習や照明技術実習、展示制作実習などの課程を経てからは、空間の使い方や照明の当て方、作品の展示方法、主催者が伝えたいことは何かを考えるようになり、展覧会を新しい角度から観ることが出来るようになった。

事前に勉強した方がよかったこと

感想にも記載しているが、授業の中で展示制作実習があり、「第 28 回九州産業大学美術館所蔵展 Arts & Material」に展示中の作品の中から出品作品を選んで展覧会を作り上げる課題があった。九州産業大学美術館は現代の美術工芸品が多く展示されている。それらの作品についての素材、技法、制作過程などの知識が、自分にはほとんどなく、同グループの方々に迷惑をかけたので、現代美術について事前に勉強しておけばよかった。現代美術に限らず、普段から様々なジャンルの美術館・博物館の展覧会を観にいくべきだと思った。

後輩に伝えたい事

見学実習の際は訪問予定の美術館・博物館について予習しておく、より深い気づきと学びにつながると思う。公式ホームページで美術館・博物館の概要や展示案内、開催中の企画展情報などを事前にチェックしておくと思う。

4月から6月にかけては実習日も多く、レポート数も多い。就職活動や仕事と両立しながら実習に参加するのはとても大変なので、特に体調管理を徹底してください。